

科目名	看護人間工学 Ergonomics & Nursing		担当教員 (研究室番号)	齋藤 真 (非常勤)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	2年次 後期	科目 区分	専門支持科目		選択 区分	選択	単位数 (時間)	1(15)	授業 形態	講義	科目等 履修生	否
科目 目的	人間工学は、人間とそのまわりの環境をシステムとしてとらえ、これらの関係について解剖学、生理学、心理学などの領域から検討し、安全性、快適性、合理性を追求する学問である。本講義では、看護に関係の深い項目を題材とし、環境、ボディメカニクス、ヒューマンエラーやユニバーサルデザインなどの講義も行う予定である。近年、看護領域における人間工学が多くの現場で必要とされてきている。基礎看護学とも関係が深い内容であるため、「工学」という暗く固いイメージにこだわらず、気楽に受講していただければ幸いである。											
ディプロマ・ ホリゾン (DP)	主要なDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)										
	関連する DP	A 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観に基づいて行動することができる。(姿勢・態度) D 様々な職種との連携において、看護専門職者としての役割を理解し、多職種による協働活動に参加できる。(技能・表現)										
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間のしくみについて人間工学的な考え方が理解できる。 2. 環境と人間の関わりについて人間工学的な考え方が理解できる。 3. ボディメカニクスについて従来の物理学だけではなく解剖生理学的な視点からも理解できる。 4. 産業保健学の分野に人間工学を活用できる。 5. ヒューマンエラーについて人間工学の立場から理解できる。 6. ユニバーサルデザインや看工連携の取り組みについて理解できる。 											
成績評価方法 (基準)	①出席(規定の出席に満たない場合は不合格となります)、②試験(100%)自筆のノート持ち込み可											
再試験の有無と 基準等	あり											
教科書	なし											
参考書等												
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と 学生への期待	この科目は、基礎看護学や産業看護学、看護管理学と深く関わっています。看護を学ぶ上で新たな視点ですので受講をおすすめします。											
備考												
回	学習項目					学習内容					主担当 教員	授業 方法
1回	看護人間工学とは					女工哀史からテクノストレス、看護と人間工学について歴史的背景を概観し、今後を展望する。					齋藤	講義
2回	ボディメカニクス [1] ・術者の身体特性とボディメカニクス					解剖学、生理学、心理学の各視点からボディメカニクスを理解し、現実の場面に応用を考える。さらに、ボディメカニクスの効率的な身体の使い方について理解する。					齋藤	講義
3回	ボディメカニクス [2] ・力学からみたボディメカニクス					術者と患者の関係を力学的な視点からとらえ、両者のボディメカニクスを理解する。現実の場面に応用できるようにするため、ボディメカニクス [1] で学んだ内容とあわせて考える。					齋藤	講義
4回	安全と人間工学 [1] ・ヒューマンエラーの発生要因					ヒューマンエラーとはとは何か、人間の解剖、生理、心理等の各分野から構造について理解する。特にヒューマンエラーの特徴や発生要因について理解を深める。					齋藤	講義
5回	安全と人間工学 [2] ・ヒューマンエラーを防止する					ヒューマンエラーを防止する方法について理解を深める。SHELによる事故分析手法について事例検討を行う。さらにヒューマンエラーの予防対策について考える。					齋藤	講義
6回	環境と人間工学 ・光環境、音環境、温熱環境					光環境、音環境、温熱環境について物理学の視点から概観する。さらにこれらを人間工学的な視点から理解を深め、快適な環境について考察する。					齋藤	講義
7回	ユニバーサルデザイン ・高齢者、子ども、障がい者のための人間工学					ユニバーサルデザインについて概観する。また高齢者や発達段階にある子どもの人間工学について理解を深める。障がい者の特性について理解し、工学的な支援について考える。さらに本学の看工連携の取り組みについて事例を通じて理解を深める。					齋藤	講義
8回	疲労と能率 ・産業疲労、近代の産業と疲労、VDT作業と生体負担					近代疲労の特徴、VDT作業の負担について概観する。また、疲労の測定、作業能率、職場改善について理解を深める。さらに労働と負担の性差について理解を深める。					齋藤	講義

学 習 課 題

- 課題1 (事後) 講義2~3の内容について、基礎看護学との内容と照合し、必要に応じてノートに補足する。
- 課題2 (事後) 講義4~5の内容について、基礎看護学や看護管理学との内容と照合し、必要に応じてノートに補足する。
- 課題3 (事後) 講義6の内容について、解剖学、生理学、基礎看護学との内容と照合し、必要に応じてノートに補足する。
- 課題4 (事後) 講義7の内容について、三重県の取り組みを参考にし、必要に応じてノートに補足する。
- 課題5 (事後) 講義8の内容について、産業看護学との内容と照合し、必要に応じてノートに補足する。

実務経験を活かした教育の取組

--